

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 39

学校名・団体名	下條村立下條中学校
HPアドレス	<a href="http://shimojo-jh.vill-shimojo.info/">http://shimojo-jh.vill-shimojo.info/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	タブレットを利用した授業デザインの研究
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>教育現場でのICT活用は、B問題の学力向上に効果があることはデータでも示されているが、小中高へのタブレットの導入は、8割が失敗している。その主な原因の一つが、従来の授業観・教材観・指導法にICT活用を乗せていこうとすることにあると考える。</p> <p>本校での4年間にわたる、タブレットの特性を活かした教材開発や、授業を通じた実践をベースにして、教材や授業のデザインや単元構成の見直しについて研究を進める。</p> <p>また、学習指導要領改定で示されている「主体的・対話的で深い学びとICTの活用」も視野に入れて、タブレットを利用した次世代型授業デザインについて研究を深め、多くの機会をとらえて発信して、数学の授業におけるICT利用推進の一助となるよう取り組んでいく。</p>	

## <活動・研究報告>

### 1. 授業・教材デザインについての研究

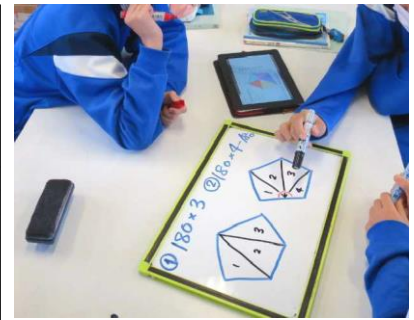
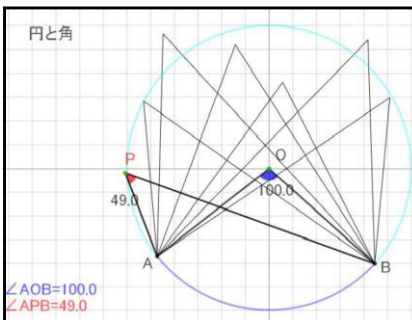
これまでは、タブレット利用のメリットに注目が集まってきたが、昨年度までの本校の実践から、メリットとされていた面が、次のようなデメリットを併せ持つことがわかってきた。

図形での利用を例にすると、

- (P1) ○図を描くのが苦手な生徒も簡単に操作して学習に参加できる。  
×簡単にできることとが、必ずしも確実な理解につながらない。
- (P2) ○紙の上では静止していても動かさない図も、いろいろな操作が可能になる。  
×いろいろできることで、かえって追究の視点が絞りきれない。
- (P3) ○短時間で、何通りも試すことや、何回もくりかえして操作できる  
×動かすことだけで満足して、思考が深まらない。

これらの問題点を改善するために、今年度は次の3点について実践的な研究を進めた。

- (A1) チーム学習の充実、学習環境の整備 4人  
チームで1台のタブレットを共有し、チーム内で課題の確認もして学習を進める。稼働率の低い被服室を借りて、協働学習に適した学習環境を整えた。
- (A2) 操作の自由度を段階的にあげる教材のデザイン改良  
授業に合わせて、課題にフォーカスしながら追究も深めることができる構成にした。
- (A3) 思考を共有し練り上げる工夫。アウトプットの重視。  
ホワイトボードを利用して、お互いの気づきや疑問を共有する。



### 2. 授業実践・授業公開（研究授業）

図形分野を中心に、すべての領域でタブレットを利用した授業を行っている。今年開発した分も含め200以上の教材を利用して、年間のべ200時間ほど授業での実践を進めている。また、研究成果の公開の場として、小中合同研修会での研究授業や参観日の授業での公開を行っている。

- (1) 平成29年11月1日 第2回小中合同研修会（下條小学校との合同研修 本校会場）  
研究授業（中学2年 数学 図形分野 多角形の内角の和 タブレット活用）

### 3. 研究発表、実践事例や開発教材の紹介

- (1) 平成29年5月24日 第1回 小中合同研修会（下條小学校との合同研修 本校会場）  
ICT活用部会にて実践事例や教材の紹介発表

